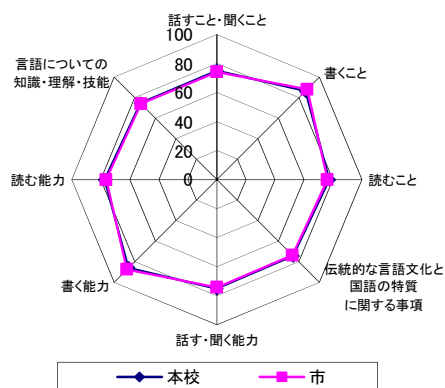


宇都宮市立一条中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	75.1	74.2	68.8
	書くこと	86.5	88.0	73.8
	読むこと	77.4	76.2	71.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.3	73.6	68.8
観点別	話す・聞く能力	75.1	74.2	68.8
	書く能力	86.0	87.5	73.8
	読む能力	77.4	76.2	71.7
	言語についての知識・理解・技能	74.5	74.0	68.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

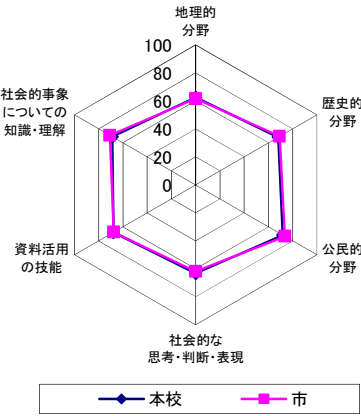
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は8割に届かないものの、市の平均を0.9ポイント上回っている。 ○「司会者の工夫を聞き取る」設問では正答率が8割を超え、市の平均正答率を上回っている。 ●内容を正確に聞き取ったり、話し方の工夫をとらえたりする」設問では、正答率は市を上回ったものの7割に届かず課題が見られる。	・他領域の中でも、話し合い活動を積極的に取り入れ、相手を意識した話し方の工夫や根拠を明確にした意見の述べ方などを継続して指導する。 ・定期的の実施している「聞き取りテスト」を今後も継続していく。
書くこと	平均正答率は4領域の中で最も高く、全ての設問において8割を超えている。 ○「意見文に対して自分の立場を明確に書くことができる」では96.4%と高い正答率であった。 ●文字数や段落構成などの条件を守って作文を書く項目での正答率は市の平均を3ポイント程度下回っている。	・文字数や段落構成などの条件下で文章を書く練習を授業の中に取り入れていく。 ・他領域の中でも「書く」活動を積極的に取り入れ、場面や目的に応じた文章を書く練習をさせる。
読むこと	平均正答率は8割に届かないものの、市の平均を1.2ポイント上回っている。全般的に文学作品の読解の方が説明文の読解より正答率が高い。 ○「文章の構成や展開をとらえることができる」では87.8%で、市の平均・参考値ともに上回っている。 ●「文章の展開に即して内容をとらえることができる」では74.1%と市の平均正答率を3ポイント下回った。 文章の内容を別の言葉で言い換えたり、的確に要約したりする力に課題が見られる。	・特に説明的文章において、論理の展開をとらえたり、筆者の考えをその根拠とともにとらえたりする学習に力を入れる。 ・文章を正しく読み取るだけでなく、それを適切に文章にまとめる力を身につけさせる。 ・文章の中からキーワードを探させたり、正しい文末表現を考えたりする学習活動を取り入れていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は8割に届かないものの、市の平均を0.7ポイント上回っている。ただし、問題の内容によって正答率にかなりの差が生じている。 ○漢字の読み書きについてはほとんどの設問において8割を超える高い正答率が見られた。 ●古典や文法において、正答率が7割に届かず、課題が見られる。	・毎週実施している漢字テストを今後も継続して行く。適切な合格基準を設けて生徒の意欲を引き出すとともに、基準に達しない生徒への支援を適切に行う。 ・文法の復習問題に取り組む中で、基礎的な事項を繰り返し説明しながら、知識を身につけさせていく。 ・なるべくたくさんの古典作品に触れる機会を持たせ、古文特有の言い回しや古語に慣れさせる。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	62.5	61.7	54.6
	歴史的分野	68.1	69.2	59.6
	公民的分野	71.8	73.6	67.8
観点別	社会的な思考・判断・表現	63.3	61.9	51.9
	資料活用 of 技能	67.9	67.7	57.7
	社会的事象についての知識・理解	68.8	70.7	64.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

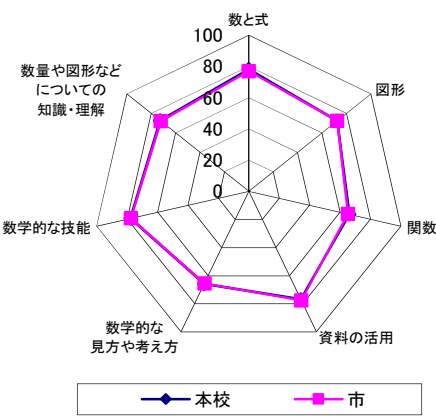
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○領域別正答率では、地理的分野の正答率が市の平均を0.8ポイント上回っている。特に、京都市に関する事項についての理解を問う問題は市の平均を4.6ポイント上回っている。 ●北アメリカ州の地形についての理解を問う問題の正答率が市の平均を4.3ポイント下回り、日本周辺の海流の名称を問う問題の正答率も市の平均を4.1ポイント下回っている。いずれも社会的事象についての知識・理解を問う問題であった。	・世界や日本の諸地域における特色ある事象を、多面的・多角的な視点から考えさせることで、分布、立地、他地域との共通点や相違点などの地理的事象を把握できるように工夫する。 ・特に、北アメリカ州の地形の特徴への理解を深めるために、地図教材を用いた学習活動をより多く展開したい。
歴史的分野	○縄文時代の遺跡の理解を問う問題、明治時代の近代文化の理解を問う問題の正答率がそれぞれ98.6%、96.4%と高く、市の平均を上回っている。 ●領域別正答率が、市の平均を1.1ポイント下回っている。特に、資料を読み取り、正答を導く問題の正答率が低い。東山文化の特色を把握する問題や江戸幕府の大名統制に関する問題の正答率は、それぞれ市の平均を3.4ポイント、4.6ポイント下回っている。	・歴史の大きな流れを大観させるとともに、各時代の歴史的事象や特色を正しく把握できるように工夫する。 ・特に、古代や中世、近世に関する社会的事象についての知識や理解を深めるために、当時の資料を読み取らせたり、年表にまとめさせたりする学習活動を展開したい。
公民的分野	○物事の採決の仕方に関する問題や高齢社会について資料を読み取る問題の正答率が、それぞれ市の平均を2.4ポイント、4.8ポイント上回っている。 ●日本国憲法や現代の民主政治に関する問題の正答率が市の平均を下回っている。特に、憲法改正の手続きを問う問題の正答率が9.3ポイント、国会と内閣の関係について問う問題の正答率が11.4ポイント下回っている。	・現代社会における見方・考え方を通じて、社会的事象に対する理解を深め、習得した知識を活用することで思考力・判断力・表現力などを高めていく工夫が必要である。 ・特に、憲法改正の手続きや国会と内閣の関係などについて、基本的事項を確認し、適切な知識の習得を目指したい。そのためには、時事問題と関連づけたり、ロールプレイの手法を取り入れるなど、主体的な学びが実践できるように学習活動を展開したい。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	78.3	77.1	71.0
	図形	72.4	72.4	59.3
	関数	66.1	65.2	51.0
	資料の活用	76.8	77.6	67.1
観点別	数学的な見方や考え方	65.7	65.5	48.8
	数学的な技能	77.8	77.5	69.8
	数量や図形などについての知識・理解	72.7	72.1	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

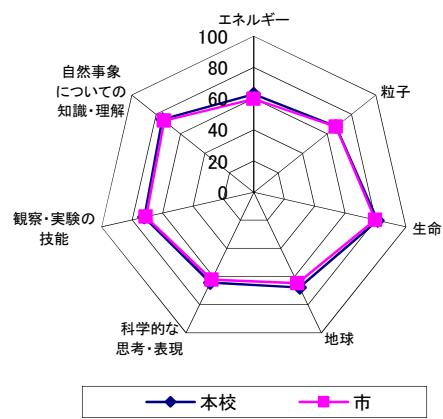
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○領域別正答率は市の平均を1.2ポイント上回っている。特に「1次式と数の乗法を分配法則を使って計算する問題」の正答率は97.8%で、市の平均を5.9ポイント上回っている。 ●「分母の有理化を必要とする根号を含む式の加法」では正答率が市の平均を3.7%下回っている。	・分母の有理化や根号の中の数を最小にする処理について反復練習を行い、根号を含む式の加法のあらゆるパターンについて十分な計算力を身につけさせる。
図形	○領域別正答率は市の平均と同じ72.4%である。「角の二等分線の作図」の正答率は市の平均を5.0ポイント上回っている。 ●「証明の過程において対頂角を指摘する問題」の正答率は市の平均を6.2ポイント下回っている。	・証明に必要な情報と不必要な情報を整理しながら証明問題を振り返り、証明の構成に必要な要素を正しく理解する力の育成を図る。 ・作図の手順に加え、その手順の適切さについて考えさせる授業を行い、作図についての理解を深めさせる。
関数	○領域別正答率は市の平均を0.9ポイント上回っている。活用の問題では、3問すべてにおいて市の平均を上回っている。 ●「傾きと1点の座標から1次関数の式を求める問題」では、正答率が市の平均を0.6ポイント下回っている。	・グラフの傾きと変化の割合の関係などについて深く理解させ、多様な1次関数の式を求める問題に対応できる力を養う。
資料の活用	○「最頻値についての理解」を問う問題では、正答率が市の平均を5.1ポイント上回っている。 ●領域別正答率は市の平均を0.8ポイント下回っている。特に「度数分布表から階級の相対度数を求める問題」と「大小2つのさいころを投げたときの確率を求める問題」においては、市の平均を3.5ポイントほど下回っている。	・階級の相対度数を求めること、階級値を用いて中央値や最頻値を求めること、階級値と度数を用いて平均値を求めることなど、度数分布表を基に様々な値を求める反復練習を行うとともに、代表値のもつ意味を度数分布表を用いて再確認する授業を行う。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	62.9	59.7	57.9
	粒子	67.5	67.4	59.8
	生命	81.3	79.9	73.5
	地球	67.7	64.7	54.6
観点別	科学的な思考・表現	64.4	62.3	56.3
	観察・実験の技能	71.9	70.9	65.4
	自然事象についての知識・理解	75.0	73.5	66.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

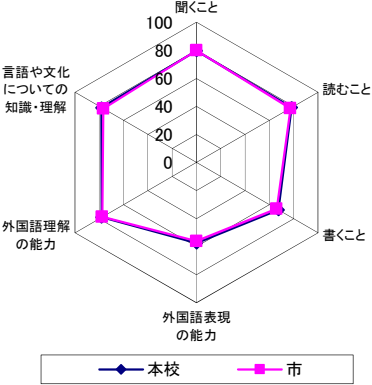
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○領域正答率では、市の平均を3. 2ポイント上回っている。特に、磁力線の理解に関する問題では、市の平均を8. 2ポイント上回っている。 ●磁力線によってコイルのまわりの鉄粉がつくる模様を考える問題では、正答率が3割を下回っている。	・コイルのまわりに磁界ができることは理解しているが、コイルを上から見たときの問題の図が棒磁石のように見えたために、棒磁石のまわりの磁界のようすと間違えてしまった生徒が多数いた。そのため授業の中では、磁石とコイルのまわりの磁界のようすをしっかりと対比させ、ワークシートも工夫しながら作図練習に取り組ませたい。
粒子	○領域正答率では、市の平均とほぼ同じ結果だった。昨年度の本校の結果との比較では、0. 2ポイント上回っている。特に、中和反応の際のイオンの数の変化に関する問題では、市の平均を5. 1ポイント上回っている。 ●分解か化合かなどを見分ける問題では、正答率が4割を下回っている。	・「分解」と「化合」について混同していたり、「混合物を純粋な物質に分けること」と「分解」とを混同していたりする誤答が多かった。化学反応式から、どのような化学変化が起こったのかについて多角的にとらえさせたり、化学変化か否かや、化学変化だとすると分解か化合かを判断させるような機会を設けていく。
生命	○領域正答率では、市の平均を1. 4ポイント上回っている。特に、消化のしくみや、根の先端部分を塩酸で処理する理由に関する問題では、市の平均を5. 0ポイント上回っている。 ●観察記録から植物を適切に分類する問題では、正答率が6割を下回っている。	・植物の分類において、花卉の付き方だけで合弁花類と判断してしまう生徒が多数いた。花卉の状態で合弁花類か離弁花類かを分類するのは、双子葉類の中での分類法であって、単子葉類である時点でそのような分類の仕方はしないことをきちんとおさえさせる。また、合弁花類も離弁花類も葉脈は網状脈である等の共通点にも着目させることで、より理解が深まるようにする。
地球	○領域正答率では、市の平均を3. 0ポイント上回っている。特に、寒冷前線通過時の天気の変化に関する問題では、市の平均を6. 7ポイント上回っている。 ●天気図記号の作図に関する問題では、正答率が5割を下回っている。	・天気図記号の問題では、くもりマークを晴れや雨のマークと間違える例が多い。また、風力を表すハネを逆側につけてしまったり、斜めではなく直角にハネをつけてしまう例が多い傾向にある。様々な天候の作図問題を用意し、繰り返し練習させることで、より理解が深まるようにする。

宇都宮市立一条中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	79.7	79.9	75.7
	読むこと	78.3	77.3	72.8
	書くこと	67.5	66.0	69.3
観点別	外国語表現の能力	57.5	56.1	58.8
	外国語理解の能力	78.1	77.6	72.3
	言語や文化についての知識・理解	78.2	76.6	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(英語では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○領域別正答率は市の平均を0.2ポイント下回っているが、①「対話の内容を聞き取り、適切に応答すること」の「天気について」では3.5ポイント、②「英文の要点を聞き取ること」の「日本にいた期間について」では4.6ポイント市の平均を上回っている。 ●①の「提案に対する応答」では3.7ポイント、②の「行ったことのない場所について」と「スピーチの内容について」では市の平均を2.5ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・クラスルームイングリッシュを使用し、普段から自然な英語の音に慣れさせる。 ・様々な場面設定での日本人教師とALT(英語指導助手)、教師と生徒、生徒同士のインタラクション(対話)の機会を増やすことにより、多様な英語表現にふれさせる。 ・英文を読むときに、単語同士のリンキング(音の結合)、リダクション(音の欠落)等を意識させ、より自然な発音を身に付けさせる。
読むこと	○領域別正答率は市の平均を1.0ポイント上回っている。特に「スピーチの内容をふまえて、感想文を書くことができる」では9.3ポイント、「thatの内容を把握することができる」では5.4ポイント市の平均を上回っている。 ●その他の設問での市の平均との差は概ね±1ポイント程度であるが、①「英文の情報・情報をもとに、適切な発言を選ぶことができる」では市の平均を5.9ポイント下回っている。	・左記の①で正答率が低かったのは first, second 等の序数詞や one 等の不定代名詞の用法についての知識・理解が足りなかったためと思われる。教科書の本文以外にも、様々な場面、題材についてのまとまりのある英文に触れさせ、単語や構文の用法についての知識・理解を深めさせる。 ・まとまりのある英文の内容読み取りでは、題名をつける、段落ごとに要点をまとめる等の活動を通して、概要の把握から細部の読み取りへという手順を指導する。
書くこと	○領域別正答率は市の平均を1.5ポイント上回っている。特に①「英文を正しい語順で書くことができる」の「疑問詞+to～」では9.8ポイント、②「自分の夢について、まとめた内容で説明する文を書き表すことができる」の「なりたい(したい)理由の説明」では6.2ポイント市の平均を上回っている。 ●上記①の「関係代名詞を含む文」では市の平均を3.9ポイント、②の「自分のなりたい(したい)ものを伝える文」では6.9ポイント市の平均を下回っている。	・文法事項の学習では基本文の導入から様々な場面に合わせて多様な英文に触れさせていく。その後、インタビュー活動を通して基本文に慣れさせるとともに、インタビューの内容についての英文を書くことで表現力の向上をはかる。 ・テーマに沿って、自分が表現したいことを伝えるための適切な英文を選択し、理由、自分の気持ちや考えなどを含むまとまりのある英文を書かせる活動を継続して行う。 ・基本的な文法事項の定着を図るため、書く活動に関するドリルを継続して行う。